

## 医療法人 白報会グループ 理事長

# 白 昌善

## イオンモールに総合クリニックを開設 「ドクターランド」が医療アプローチを変える

在宅医療をはじめ、特別養護老人ホーム、各種診療所などを手掛ける医療法人白報会グループは4月、イオンの大型ショッピングセンター(SC)、イオンモール船橋への総合クリニック「ドクターランド」を開設。グループとしては2施設目となるドクターランドのオープンによって、いよいよ本格的なSC内総合クリニックの展開を加速する。

### 医療の後ろ向きイメージを 払拭したい

——白報会のスタートは在宅専門クリニックだと聞いています。

白 白報会を設立し、在宅医療を手掛けるようになったのは、いまから12年ほど前、2000年のことでした。需要の拡大を見込んで進出した在宅医療の分野であり、見込みどおり確実に地域の生活者に浸透していきましたが、当時はまだこの分野で専門的に医療を展開する団体は少なく、社会における認知度も高くはありませんでした。いまではいずれの地域でも在宅医療に関するサービスが展開されていますが、当時、在宅専門クリニックはほとんどありませんでした。東京・荒川でスタートさせましたが、地元医師会を訪ねた際にも在宅専門ということで、かなり珍しい存在と映ったようです。

——どのような経緯でSC内での総合クリニック開設となったのでしょうか。

白 開業当時から在宅専門で医療を展開したように、医療に関するニーズの高ま

りをいち早くキャッチし、まだ日本にはないサービスを展開していくことに非常に興味を持っていました。特別養護老人ホームもそのうちのひとつで、在宅医療の展開とともに、白報会が提供するサービスの柱となっています。そして、今回新たな柱として千葉・船橋に登場し、2施設目となった、総合クリニック「ドクターランド」の展開です。

あらためて考えると、医療そのものは古くから生活に密着したものであるはずですし、生活者にとって、まさに生活の一部でなければならないはずですが、病院やクリニックなど実際の医療施設の多くは、生活者から見た場合、依然として敷居の高いものだったのではないかと思います。

のです。それは、施設のつくりはもとより、サービスを構成する医師や看護師など、われわれ提供者側のアプローチにも大きな問題があると考えていました。多くの医療サービス提供者は、時代や環境が変化しているにもかかわらず、これまで引き継がれてきた医療の提供スタイルを踏襲しているだけのようにも見えました。医療サービスとはいうものの、土・日曜・祝日や夜間の診療を行わない施設は現在も多く、初期医療を手掛けるプライマリー・ケアの観点から、生活者のニーズに応える施設は皆無に等しかったと言っても過言ではありません。そのような背景から最初に開設したのが、東京・葛飾の奥戸診療所であり、さらに発展させるかたちとなった



月300人強が利用している「ドクターランド船橋」。今後の見通しでは徐々に増加し、500人程度を見込む

のがショッピングセンター(SC)内に開設した、初のドクターランド松戸でした。

——生活者からすれば、使い勝手の良い医療の姿は、当然望むことでありながら、現実には診療時間や場所の問題を含め、なかなか実現しない。逆の見方をすれば、それだけ医療業界の中で解決すべき課題も多いということでしょうか。

白 医療施設として、いかに生活者に親しみやすい場所として運営できるかが最も重要だと考えていましたが、ドクターランドという名前一つとっても、諸先輩方からは「ゲームセンターのような名前はいかがなものか……」との意見を頂戴したりもしました。(笑)

思い起こせば、かつて漢字の行名が当たり前だった銀行業界に、カタカナで野菜の名前を冠した銀行が登場し話題を呼んだ時代もありました。以降、ひらがなやカタカナで表現するさまざまな行名が登場しただけでなく、金融再編の中で銀行業界そのものが大きな変革を遂げました。ドクターランドも当初からSCなどの商業施設内での展開を意識し、より生活者にわかりやすい名称としました。医療業界でのさまざまな意見はあるにせよ、まずは医療に対して生活者が感じている敷居を下げるが必要だと考えました。今回開設した船橋では、まだ開院したばかりにもかかわらず、ドクターランドの呼称が利用者へ急速に浸透しているように思います。

### 課題の医師配置も 立地に合わせコーディネート

——ドクターランド船橋では、土・日曜・祝日も開院し、かつ、夜21時までの夜間診療受付を行っています。既存の多くの医療モールでは診療科ごとの独立性が優先され、医師の配置を含むコーディネートが大きなネックだった。

白 医師の確保や配置はいまも重要な課題として存在しており、ドクターランド展

開へ向けてすべてが解決できているわけではないわけではありません。船橋では、1日2万人から3万人が訪れるSCへの来場者数から算出した、ドクターランドへの来院者数を見込み、初期医療を提供するプライマリー・ケアの拠点としての機能充実などを



### PROFILE はくまさよし

1962年生まれ。聖マリアンナ医科大学卒。
94年5月
第88回医師国家試験合格
96年4月
同医科大学大学院 入学
同年5月
国立病院東京医療センターレジデント開始
98年3月
同センター終了
2000年3月
聖マリアンナ医科大学大学院 卒業
同年8月
医療法人社団 白報会 設立 理事長就任
10年12月
医療法人社団 千葉白報会 設立 理事長就任
11年2月
医療法人社団 東京白報会 設立 理事長就任

考慮し、白報会グループの常勤、非常勤合わせ、30人ほどの医師を配置しました。まだ2施設目のドクターランドですが、イオンモールでは、イオン側の担当者が熱意を持って調整に当たってくれたこともあり、現時点では生活者に一定の評価を

いただける、非常に良い施設ができたのではないかと考えています。船橋の動向を見てか、イオンなど流通企業からはSCへの展開依頼が増えています。積極的に開設を進めていきたいと考えていますが、生活者から見たSCの立地と同様に、医師を確保し配置するうえでの立地や環境条件があり、すべてに配慮されるだけの状況ではないのも事実です。診療科を限定した小型版ドクターランドの展開を含め、あらゆる開院パターンを検討しているところです。

——ドクターランドが今後生活者に提供する基本サービスとは、どのようなものでしょうか。

白 まさに生活の一部としての医療サービスを受ける姿です。これまで買い物のついでに銀行に行って用事を済ませると同じように、買い物のついでに医療サービスを受ける、あるいはその逆です。プライマリー・ケアの一つの姿だと思います。われわれとしては、ドクターランドで診療を受けた方々のセカンドオピニオン(主治医以外の医師の診療方針や意見)の要望や、在宅医療など診療そのものに対する相談に応じるため、施設内にコンシェルジュ(医療相談員)も配置し、医療サービスに関して気軽に相談いただけるよう態勢を整えています。

——プライマリー・ケアの拠点としてオープンしたドクターランドですが、いずれ生活者からは、治療という枠組みを超え、快適生活を送るうえでの身近な機能の一部として認識されるかもしれません。

白 カウンターでは、すべての診療科の受付や精算を一括して行い、ロビーを含め開放感のあるつくりにこだわりました。また、医師、歯科医師以外のスタッフは白衣ではなく、親近感のあるユニフォームを着用しています。日常生活の中に医療が溶け込むよう、運営したいと考えています。